

これまでの利用経験から、本データベースについて改良が必要と思われるのは以下の点である。

- 1) 同一鉱床に対する鉱床タイプの分類が必ずしも一致していない。これは収録者の判断、成因研究の進歩などに起因するものである程度やむをえないことであるが、適当な時点で統一する必要がある。
- 2) 地質単元の記述が不完全である。これはとくに広域的な資源評価のために文献検索を行う際に大きな欠点となるものであり、地域名を含めてシソーラスを作る必要がある。

本データベースは、将来上記のような問題点を改良のうえ公開する予定であるが、現時点で検索サービスを希

望される方は地学情報サービス (Tel : 0298-56-0561, FAX 0298-56-0568) に連絡されたい。

本データベース構築および小論の内容について、鉱物資源部吉井守正技官に多くの助言をいただいた。また富島俊子さんには入力を担当していただいた。記して謝意を表する。

SATO Takeo (1991): Database of references on mineral deposits.

<受付 : 1991年4月9日>

~~~~~地学と切手~~~~~

ブラジルの産業と鉱物切手

P. Q.

ブラジルは日本にとって日系移民の昔から関係の深かった国であるが、最近では経済的にも技術的にも、ますます緊密さを増している。ブラジルは人口約1億余り、面積は日本の22.5倍、従来の農業国から更に鉱工業国へ発展しようとしている。

切手は1966年4月発行の鉄鉱基地、1968年3月発行の

ペトロブラス15周年記念と、1977年11月発行のトパツ、アクアマリン、エメラルドの3種である。

鉄鉱 変動はあるが、世界の10位以内の産出を示す。現在の産出は、首都ブラジリアの少し南にあるミナス・ジェライス州に集中している。ここには推定約40億トンの鉱床があり、国策会社リオドーゼによって開発されている。このイタビラ鉱山は、世界最大の鉄鉱山と言われている。鉱山の近くには日本が資本と技術参加したウジ・ミナス製鉄所が操業している。強粘結炭の産出に乏しいのが弱点である。

マンガン ソ連・南アフリカに次ぐ世界第3位の産出国で、年産250万である。ミナス・ジェライス州で推定埋蔵量1億の鉱床が発見されている。

石油 ブラジルでは石油資源については一般に悲観的である。ブラジルでは1953年に石油国営法案が成立し石油天然ガス開発はペトロブラスの専管とし、私企業の参加は許されていない。現在では大西洋沿岸の油母頁岩の調査も進み、エスピリト・サント州でもかなりの油層が発見されている。しかし最大の問題は北部のアマゾンに石油鉱床があるかないかということである。ペルー・コロンビア・ヴェネズエラとアマゾン北側の各国で開発されている石油が、アマゾンまで続いていないという保障はなく、調査の結果が待たれる。

その他 錫は北部ロンド・ニャー州に、クロムとニッケルは南のミナス・ジェライス州で産出している。ニオブは世界最大の産出を誇り、これもミナス・ジェライス州のアクスで産出されている。同州はウランも発見されている。ボーキサイトの開発はアマゾン川支流のパラ州で、アルキャンとリオドーゼの合弁事業の下に進められている。

